別記様式第6

## 鑑定評価書 (令和3年地価調査)

令和 3年 7月 6日提出 青梅(都)-13 宅地-1

基準地番号						提出	所属分科会名				í	業者名   白鷺不動産鑑					Ē									
青梅(都)-13						東京都			多摩第 6				氏名 不動産鑑定			Ė	異 信	信行    印								
鑑定評価額						8,900,000						円	1 ㎡当たりの				りの価	格					42,600 円/㎡			
1 基本的事項																										
					<del></del> 年	7月	 1日	(4)鑑定評価日					令和 3年			 ▼ 7月 2日			] (	令和	令和 3 年 1月					円/㎡
(2)実地調査日						·/, 6月 1:		( , - = - = - = - = - = - = - = - = - = -					正常価格								路線価又は倍率				1.1	倍
` '								(3)  単行びが里沢					ᅟᅟᅲᅲᆒᄪ				(6) [ 令和 3 年 1 路 路線価又は倍 線 倍率種別									
																								—		
$\overline{}$		平価額の決定 在及び地番			<u> </u>													地和	±		209			生会上の担制等		
(1) 其	'	「住居表示」		青柏	市具	<b>黒沢一</b>	丁目 1	目108番3外										(m²		( )		,	法令上の規制等			ਚ
基準地		状	敷地の利用			現況			土地の利用		用	接	面道路の		状況		供給			(		の	1 低専			
			住宅 L S 2				の状況 畑が散在し、在来信宅と新興住宅がある									1.	0理施 0状況	接边	<u>F</u> 0	の状況		<u>(</u>	(40,80) 高度(1種)			
												市道			п.	直又1八ルし						· ·				
	1.5:	1							住る	南4m					K道、 F水	東青梅 3.4km					(その他)					
							住宅地域		地域		•					'	3,   0.4		Ten				土砂警戒			
(2) 近		囲 準的画地の			西	80	m、 kh	南 17	0 m.	m、 奥行		40	m	標 m、キ		使月		建住宅		度、形	14	長方	пз			
近隣地域	地	域的特性	最低限					17	Ť	1	ま準	方位	<u>ئاد</u>			_ ::	東青梅	駅	1土/	文、ルグ			··· 1 低車			
			特記							街	4 .	0 m ī	节道		交通	<b>鱼</b> : :	北方3.	.4 <b>k</b> m		法			40, 高度( モz小 <sup>会</sup>	40,80) B度(1種) -砂警戒		
			事項	頁:						路					施記	殳					規制	刮 :-	L₩≡	洲、		
	地将	域要因の 来予測	畑かへの	が散在し、 )接近性:	山が劣	林に近 る地域	接すってあり	る一般	般住宅地 地価は下		域で	あるか 向が緑	バ、 売く:	当面に	よ現り と予測	大を割す	維持し る。	つつ指	主移	ましてに	くも	のと	予測	する。	利便	<b>更施設</b>
(3) 最有効使用の判定 戸建住宅:													(4)対象基					準地	方	位						+5.0
(5)鑑定評価の手法 の適用 (6)市場の特性			取引事例比較法 比				<b>汽準価格</b>					42,	42,600 円/m²			Ò	の個別									
			収益還元法			収益価格							/ 円/		m²											
			原価法			<b>括</b> 省	(価枚						/ 円/㎡													
			開発法			積算価格			 トス価枚																	
							開発法による価格				で あ								371	(				 		
			が中	心となっ	人口は	外周部の住宅地域等では減少傾向であり、高 は減少傾向であり、高 稀に散見される程度では				系辦?	齢化率も高い。			中心市街		地や利	使施設	₽.	交通施設から			距離のある地域で			でありー	
			1,	000	5円	程度、	建売	は殆と	は殆ど見られな			ം 			<b>₩</b>		±в іщ V.	八下冷叫	뭐							111
(7)		画格の調整 証及び鑑定	近隣取る	地域は	田も	散在しないた	、山 め L	林に近辺益さ	接	する- の適用	般日は	住宅地 断念 L	域	であり	り、フ 田のF	アパ ラ建	パート等 健住宅建	の賃貸	計一と	不動産の土地	は始めている	ど見せば	られ	ず、し の十t	仅益目 地建物	的の
評価		類の決定の	取引は極めてとしての戸建し、類似の公			宅の取	引が「	中心と	心となってい 踏まえ、鑑定		13,	。した	こが	って、	本作	半に	おいて	は市場	易の	取引達	体を反	反映	した	比準化	画格を	を重視
(8)	理由		標準	標準地		地		点		標準化		地域			別的	文	付象基:				<b>計路</b>		.0 <del> </del>		<b>計路</b>	0.0
公示価格を	規 価準 柊	標準地額		梅-12			修	正	1	補正		因のl 較	比	要因比較	因の診	0	D規準 (円/	価格 [	为沢	準 交通 化 環境			. 0 点 . 0 量	或 玄 更 耳	と通 環境	+3.0 +6.0
	٦.	公示価格		114 12			r 90	9.8 ]		100		100	1	[ 105			(13/	,	- 1	補画地		+1.	11-	1 1º	了政	0.0
	た			44,80	円			00 [ 101.0 ]		ַז ונ						42,600		ľ	一 行政			0.0 その他 0.0		)他	0.0	
(9) 指定基準地	1	指定基準	地番	号				点		標準化	L	地域			引的		付象基			標街	路		ţ.		<b>計路</b>	
	から						修	陛	1	補正		因の 較	比	安 比輔	因の反	0	カ比準 <sup>.</sup> (円/	価格   「 '㎡)   言	为沢	準 3 化 <del>1</del> 5	Σ通 景境		罗	変 る	と通 環境	
	の 検	前年指定	基準	ҍ地の価ӓ	各		Г	1		100		100	1		1		(13)	,	- 1	補 正	画地		域要因	1.	<b>亍政</b>	
	討				]/m²		00 [ ]		] ]		] 100		0					行政その他			その他					
(10 対象基準地の前	))	-1 対象						1			Т	一般								続いて	いる					
	年ら標の	継続 前年標	-	新規 i格		43	.500	円/r	m²	価数格重	[일] 기	要	因				。青梅 いる。	中の人	\Ц	は微洞	(1頃回)	、地	1回は	.横ばし	リスは	卜洛
	準 検価 討	-2 基準:	地が	共通地点		表標準	<b>声地等</b>		••	価格形成要因(変動状況)	郑 己 [	地	域	7 月	黒沢-	-丁	旦の人	口は、	. 減	少傾向	少傾向であり い。			高齢化率も高い		
地の	格等		地点 長標準	)である ≢+₩		の検i 準地	4			要因	٦   ١	要	因	- F	せのサ	也域	要因の	変化に	はな	:11.						
前	が	標準地		15	·─·↑╚				0		個別		7 個	固別的	り要	因に変	動はな	! J 1	١.							
		公示価 変動率		<b>a</b> 0	0.4	半左		円/r	′ m² %		] [	要	因	J												
		夂劉华	+18	ս -∠.	70	半年	ᆸ		70		$\perp$															